

令和3年度 江戸川区立大杉東小学校 学校関係者評価 最終評価用報告書

学校教育目標	よりよい目標を実現する子 ○考える子 ○やさしい子 ○やりぬく子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	「当たり前」を大切に、常に改善を目指す学校 コミュニケーションの土台である「挨拶」「笑顔」「感謝」がしっかりできる児童 ①児童・保護者・地域の信頼に応える教師 ②教育のプロとして授業で勝負する教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果> ○高学年を中心に生活態度が落ち着いてきた。 ○新型コロナウイルス対策を中心に、教職員が一層協力し、「チーム大杉東」の結束が高まった。 <課題> ●学力が全国平均を10ポイント以上下回っている。 ●主に高学年の体力が都平均を下回っている。 ●産育代替教員も含め若手教員が多く、授業力を向上させる必要がある。		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		来年度に向けた改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	・「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上 ・「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	・各教科・領域における学習スタイルの確立 ・「東5学習編」の徹底 ・各教科・領域の重点を意識した年間指導計画の見直し	・児童自己評価「学習が理解できた」90%以上 ・学力調査全国平均-5%以内 ・ベシック診断テスト平均正答率全学年75%以上	B	C	○学習規律や1単位時間の流れなどの学校としての共有が進んだ。 ○各学年のミナムを意識した具体的な取組を強化できた。 ●定着度は依然として低い。	B	・学校は学力の向上に向けていろいろと手立てを講じている。教わった内容を復習して定着させる努力を家庭でもしっかり行いたい。	・「個別最適な学び」の実現に向けた明確な課題を提示していく。 ・ベシックリクル等効果を発揮していく。
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の充実 (読書科ノートの活用、資料の収集の仕方や記録の取り方の指導、自己の考えをまとめ表現する方法の指導、朝読書と1単位時間の授業との関連付け、他教科との関連等) ・学校図書館の整備、学校図書館を使った授業の充実	・「読書科ノート」の活用 ・「調べる学習」の教員研修 ・「調べる学習コンクール」に全児童出品 ・保護者ボランティアの協力を得た環境整備と読み聞かせ	・図書資料を活用した調べる学習 ・学校図書館整備学期1回 ・保護者ボランティアによる読み聞かせ月1回以上	B	B	○「調べる学習コンクール」に全児童が出品した。 ○ただ本を読ませるのではなく、意図的な読書や、図書資料の活用場面が増えた。 ●「読書科ノート」を計画的に使用できていない。	B	・活字離れが問題となっているので、読書を通して文字に慣れ、語彙を増やす指導を続けてほしい。 ・情報を集め、活用できる子供を育ててほしい。	・来年度「読書科」を研究教科にし、意図的な読書や探究的な学習を進めていく。 ・「調べる学習コンクール」に全員出品する。
	体力の向上	・体育の授業や休み時間における全校運動遊びなど主体的な運動の実施による運動意欲の向上	・各領域の実技研修の実施 ・全校運動遊びの時間と場の確保	・運動への関心意欲90%以上 ・体力テスト4年以上以上で都平均以上	B	C	○実技研修等を通して体力向上に向けた教員の意識を高めた。 ○運動遊びの場を工夫できた。 ●都平均を下回る学年が多かった。	B	・改築工事で運動できる環境が少なくなる。工夫して子供の体力を維持してほしい。 ・家庭や地域も協力していく。	・仮校舎にプレイルームを作るなど、意図的に読書や探究的な学習を進めていく。 ・「調べる学習コンクール」に全員出品する。
	オリパラ教育の推進	・「オリンピック・パラリンピックレガシー創造プラン」に基づく取組、「学校2020レガシー」の設定やオリパラコーナーの充実	・異文化や共生社会への理解に向けた体験活動	・体験型学習全学年1回以上	C	C	●ゲストティーチャー等を招くことができず具体的な取組に欠けた。 ●学校全体として「レガシー」への意識が足りなかった。	C	・今後も世界の国々やスポーツに興味をもつ取組を続けてほしい。	・なかよし班活動や総合的な学習の時間で、「レガシー」に関する指導を継続していく。
	外国語教育の推進	・授業力の向上とALTの効果的な活用	・担任がT1としての計画的な授業展開	・児童自己評価「楽しく学習に取り組んだ」90%以上	B	B	○計画的な授業が展開できた。 ●教材等の準備・共有を図りたい。	B	・楽しく英語を学ばせてほしい。	・教材を整備・開発し、児童の関心を高める。
特別支援教育の充実	健全育成に向けた取組の強化	・いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実 ・チルドレン・サポートチームや生活指導連絡協議会の活用	・「挨拶・笑顔・感謝」の実践 ・「東5生活編」の徹底 ・生活夕会での情報共有	・自分から挨拶できる子90%以上 ・いじめ早期解決100% ・QU学級満足群80%以上	B	B	○挨拶への意識が高まった。 ○児童間トラブルの早期解決に向けて組織的に対応できた。 ●不登校傾向の児童をさらに減少させた。	B	・挨拶はコミュニケーションの基本。大人も大切にしたい。 ・不登校については関係機関と連携し、改善に努めてほしい。	・異学年でのなかよし班活動を充実させ、思いやりの心の育成を強化する。
	特別支援教育の推進	・校内委員会の活性化を図ることなどによる指導・支援の充実 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実	・学期1回の校内研修会の実施 ・エンカレッジルームの円滑な運営 ・巡回指導教員と担任との日常的な情報共有	・エンカレッジルーム稼働率30%未満	A	B	○エンカレッジルームの円滑な運営に関して体制を整え、活用を促進できた。 ○研修を通してインクルーシブ教育に関する教員の理解を高めた。 ●障害傾向のある児童への対応の仕方の共有を図る必要がある。	A	・コロナ禍での生活は子供たちへも不安やイライラなど多くの影響を与えていると思う。違いのある子供たちをまとめていくのは大変だと思うが、学校が楽しいと思う子供を増やしてほしい。	・特別支援教育への理解をさらに深める研修を定期的に行う。 ・SCや巡回指導教員を活用した心理に関する学習を取り入れていく。
教員の資質向上	教員研修の充実	・学習用タブレットを活用した授業実施に向けた研修	・デジタル教科書の活用 ・タブレットを活用した授業展開 ・月1回の実技研修の実施	・ICT活用率80%以上	A	B	○各教科において一人1台端末の活用率を高め、授業展開を工夫できた。 ○児童の活用力を高めた。 ●ハイブリッド的な活用。	A	・授業中、これだけタブレットを使っているとは思わなかった。効果的な使い方をしてほしい。 ・昔のように黒板を使っている指導も大切にしてほしい。	・効果的な活用について共有し実践していく。 ・配信に関する機器の整備を進めていく。
	竹馬活動の充実	・伝統の継承と状況に応じた変化	・意義の再確認 ・発表形式・練習方法の検討	・運動への関心意欲90%以上	A	A	○意義を再確認し、困難な状況下でも充実できた。 ○場所や方法を工夫し、成果を発表できた。	A	・本校の伝統であるので今後も継続してほしい。 ・家庭や地域も協力していく。	・年間を通していつでも練習できる環境を整える。